

## 外国人のみた日本 日本人と社会秩序から思うこと (カルチャー・ショック)

著者	朱 振明
権利	Copyrights 日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	131
ページ	48-48
発行年	2006-08
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00005427">http://hdl.handle.net/2344/00005427</a>

# カルチャー・ショック 外国人のみた日本



Zhu Zhenming  
出身地：中国・昆明  
所属：中国雲南省社会科学院東南アジア研究所教授  
日本滞在：2006年2月～8月

## 日本人と社会秩序から思うこと

朱 振明

日本に来るのは初めてではありません。ただ、以前日本に来たのは主に会議のためで、短い滞在でした。今回、アジア経済研究所のおかげで、日本に七カ月間滞在し、研究する機会をいただきました。こうして、私は多方面から日本を観察し、理解することができました。日本での滞在中、日本人が社会秩序を守ることに強い印象を受けました。この方面の例はたくさんあります。

毎日私はバスに乗って研究所にいきます。バス停で人々は自主的に列に並びます。列に割り込む人がいないだけでなく、列に並ぶ人々は兵隊のようにきちんと列を作ります。このことは私を驚かせます。

駅やスパーのエスカレーターに乗る時、人々は自主的に左側に立ちます。右側に空きを残し、急用の人々が使用できるようにします。これも自主的な行列の一つです。

ある日は東京デイズニerlandに遊びに行きました。すばらしいパレードがあります。多くの観光客はこのパレードをみるために、園内の道路の脇におとなしく座ってパレードを待ちます。管理者が秩序を維持する必要はありません。人々は強い風をものともせず、そのまま一列一列に並んで座っていました。

人々は道を歩いたり、自転車に乗ったり、

車を運転したりする際、信号の指示に従って交通規則を守ります。私は常に見ますが、赤信号の時、たとえ一台の車も走っていないくても人々は突進せず、自覚的に青信号を待ちます。道で「止まれ」という標識があれば、人々は止まります。

さて、従業員が商業上の秩序を守ることにも強い印象を受けました。私が見た日本の商品はその表示の上に製造原料、原料の産地、生産日時などが記入されています。商品の原材料と質によって、価格を確定します。どれほどお金を出せば、どんな質の商品を買えるかがわかります。人々は、大金を出して粗悪な品を買う心配はありません。商業上の秩序が守られているからです。

自主的に公共秩序を守るとは、日本人の習慣だといわれます。これは日本社会の安定と発展の一つの重要な原因です。日本人が社会秩序を守ることができるのは、まず文化伝統の影響でしょう。日本人の国民性には、集団の利益を守る伝統があります。また、他の理由は、日本人は長年社会秩序を守る教育をうけることです。こうした教育は家庭、学校で行われています。

日本人が自覚的に社会秩序を守ることから、私は中国の状況を思い出します。実は、中国では孔子の時代から社会秩序を守るこ

とが重視されました。「礼」は人々の行為を規範づける法で、人々が社会秩序を守ることを要求しました。しかし、私たちは一つの事実を認めなければなりません。即ち、社会秩序や法律を守る教育の面では、私たちは不十分です。ある人は自分のことだけ考え、人のことをかまいません。公共の場所でも、自分のいつものやりかたでやりま

す。多くの場合、信号を無視し続けます。ある販売者は、社会道徳を全く気にかけません。売る綿の中に石を埋めたり（黒心綿）、売る肉の中に水を注いだり（注水肉）、はかりの分銅に鉄を加えたり（黒心秤）、人の生命と健康を脅かして、社会に危害を加えます。もちろん、日本人の中にも社会秩序を守らない人もいます。ただ、総体的に言えば、自覚的に社会秩序を守るとは既に社会気風になっています。これを私たちは学ぶべきではないでしょうか。

私はアジア経済研究所の同僚、友人たちといっしょに七カ月間生活しました。彼らは私に親しく気を配ってくれました。とくにカウンターパートの山口さんに多く手伝っていただきました。本当に感謝しています。同時に、アジア経済研究所の他の友人たちにも、心から感謝の意を表します。

（原文日本語／海外客員研究員）